

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100525		
法人名	株式会社 ウェルケア沖縄		
事業所名	グループホームめぐみ首里 1階		
所在地	沖縄県那覇市首里山川町2丁目56-14		
自己評価作成日	令和6年 11月30日	評価結果市町村受理日	令和7年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoCd=4790100525-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoCd=4790100525-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和7年 3月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者個々の生活リズムやペース、こだわりを尊重し、本人が安心して生活がを個々のスタイルに合わせて行っていただいています。また自立支援を基本としてご自身でできることは年齢や介護度に関係なく行っていただいています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、古からの住宅街に立地しており、開所時に自治会に加入し、行事に参加するなど、良好な関係を築いている。運営主体である医療法人は、県内で5事業所を運営している。職員は、法人の経営理念、行動指針、運営方針を入社時のオリエンテーションや年度初めの研修等で理解を深め、日常的に実践している。計画作成担当者を中心に、日々の実践・記録・モニタリング・プランの変更など、一連のプロセスを職員間で共有して実践している。食事については、配食を活用して提供しているが、行事や季節に合わせてちらし寿司や沖縄そばを提供し、調理レクでは地元の特産品である「のまんじゅう」を利用者と一緒手作りするなど、食を楽しむ取り組みを実践している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して周知している。また年に一度の法人試験で理念に関して必ず出題されて、理念の理解及び理念に沿って業務が行われているかの確認が行っている。	法人理念に示されているミッション・ビジョン・バリューを掲示し、日常的な実践の拠り所としている。法人で実施される試験では、職員個々の理念の理解について確認が行われ、フィードバックがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入して回覧板にて地域の情報を共有している。また毎年の清掃活動に参加して交流を深めている。その他に首里地区の旗頭として認知症ケア会議に参加している。地域交流の一つとして施設の畑を就労支援事業所へ提供している。	地域の自治会に参加し、自治会主催の地域清掃や地域の見守り会議に管理者などが出席している。また、地域の新聞販売店からは定期的に古新聞の差し入れがある。事業所に隣接した畑は就労支援事業所に貸与しており、バナナなどの作物の差し入れなどの交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られたご家族様にはグループホームの説明だけではなく、現在ご自宅でのお困りごとなどをお聞きして相談に乗ったり、共感して少しでもご家族の問題解決になればと対応させていただいています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて報告を行い知見者よりご意見を頂き、頂いた内容を周知して運営に活かしている。	運営推進会議は、2階と合同で実施している。家族や地域代表者については、都合に合わせて可能な限り参加を依頼している。家族については、入居間もない利用者の家族に声をかけたり、地域代表として事業所の大家に声をかけるなどの工夫を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やメール・ファックスにて相談・情報交換を行っている。	運営推進会議や地域の見守り会議の際には、メンバーである地域包括支援センター職員と情報交換を行っている。市の職員は、運営推進会議に可能な限り参加し、情報提供や適切な助言を得るなどの協力関係を構築している。また、民生委員入門講座に関わる機会があり、民生委員の事業所訪問につながった。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束研修を定期的実施している。また事業所内で出た身体拘束に当たるのかなどの議題を運営推進会議に投げかけて、知見者の方に検討して頂き、フィードバックしている。	法人で共通した身体拘束をしないケアに関するマニュアルや指針が作成されている。指針に沿って、会議は3か月に1回開催されている。研修はオンライン研修が主となり、法人で作成された教材が配信されている、職員は適宜受講し、フィードバックを行っている。会議の開催は確認できたが、報告は口頭でのみにとどまっている。	身体拘束等の適正化のための対策委員会の開催は確認できたが、会議録の整備や職員への閲覧など、周知の徹底が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待防止研修を定期的に行い職員への理解、再認識を図り、虐待防止に努めている。また運営推進会議にて職員から出た質疑に回答を求めています。	虐待防止については、法人によりマニュアルが策定されている。マニュアルには、担当者の設置、委員会の開催、研修の実施について明記されている。研修はオンライン研修が主となっているが、今年度は市の出前講座として外部講師による研修を実施した。しかし、指針の策定と委員会の開催が確認できなかった。	虐待防止の対策を検討する委員会の設置とマニュアルは確認できたが、法で求められている指針の策定と会議の開催、会議録の整備が望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修にて権利擁護・成年後見制度について学びの時間を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学の際にパンフレット・利用料金・おむつ単価表などお渡ししている。契約時には重要事項説明書を読み上げて説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族などの意見・要望は申し送りノートにて職員へ周知して支援へと繋げている。また、面会・電話やメールなどを利用して聴取し改善に取り組んでいる。	定期的に行われている法人情報誌「ふれあいだより」には、優秀事業所として表彰されたことが記載されている。関係者との協働のもと、入居者や家族の要望や意見を反映した事業所運営に取り組んでいる。家族からは、状況確認の連絡や差し入れの可否などの要望があり、管理者や計画作成担当者を中心に対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常に職員の意見や提案を聞いている。新人職員に対しても業務に関しては自由に発言できる環境であることを伝えて、オープンな職場としている。実行出来る提案などはすぐに対応して取り入れている。	管理者は、職員が意見を述べやすい環境の整備に取り組んでいる。料理が得意な外国出身の職員には、出身地の料理の調理や共用空間の装飾を任せたり、利用者の誕生日のケーキを手作りするなど、職員の意見や提案を取り入れた運営を行っている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間目標シートを作成し各自スキルアップを目指しながら職務にあたっている。中間面談・自己評価の機会があり、昇給や賞与への反映を行っている。法人研修ではスキルアップを目指すだけでなく、合格者には1年間手当が支給される。	法人が策定した目標シートや定期的な研修受講などにより、個々の職員の現状や目標を把握し、達成に向けた支援に取り組んでいる。また、ハラメント対策マニュアルが策定され、職員に対する研修も実施されている。人材確保の課題については、法人全体で取り組み、職員定着率が向上した。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を希望される時はシフト調整し研修を優先して受けることができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	首里地区の認知症ケア会議に参加し、現在の取り組みやこれからの活動について意見交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様に会わせて頂きご本人様のご要望をお伺いしている。また、家族様・医療と連携して得た情報を職員に周知して、不安のないように本人の望む環境づくりを行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況や悩み・施設に望んでいることを伺い、その時点で不安や悩みが少しでもへらせるように、事業所としてできることをお伝えして安心してもらえるよう対応している。入居すぐは家族様へ生活の雰囲気をお伝えして安心していただけるように連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の時点でご家族が困っている事や、不安に感じていることをお伺いしている。入居後も家族と生活の状況や本人の体調など情報を共有して家族様の意見も取り入れて支援へと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が出来る事は行っていただき、支援が必要な時に手伝わせていただいている。調理の準備や洗濯たたみなど、一緒にできることは職員と一緒にいき、同じ時間を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限は行っておらず、家族様の面会や家族様との外出を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様と外出時に親戚やご友人に面会されたり、兄弟や親戚の方が面会に来られたりしている。	入居前に通所していたデイケアを現在も週に3回継続している入居者は、デイケアとの関係が維持できている。家族や知人などの訪問の際には、居室での交流を支援しており、差し入れた料理などを家族とともに楽しむ時間となっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんの顔が見えるようにリビングでの席を配置したり、仲の良い利用者の方同士の配置に工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族へ何かあればお気軽に連絡をいただくようにお伝えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設見学時、入居前にご本人、ご家族の暮らしへの希望・意向を居宅ケアマネより聞き取りを行い、入居時から対応できるように周知している。	音楽に関わっていた入居者の居室には電気ピアノを置き、好きな時に演奏できる環境を整備している。また、海外での経験が豊富な入居者からそのエピソードを聞き取るなど、入居前の生活や暮らし方について得られた情報を職員間で共有し、日常的なケアに活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を提供を受けているが、入居後もご本人より生活歴などの話が聞けたら、情報として残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が入居者個々の能力を把握し、一人ひとりの対応を行っている。申し送りや情報共有ノートを使用して情報の把握を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月行い、ご本人・ご家族の意見を確認している。医療関係者にも日頃の様子を報告して意見を求めてプランの変更などを行っています。	介護記録にはタブレットを活用している。経過記録として担当の職員が入力した情報を計画作成担当者が分析・整理し、モニタリング資料を作成している。資料をもとにミーティングでモニタリングを実施し、職員間で共有したうえで介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに個々の生活状況を記録し、申し送りノートや訪問診療報告書などを各自で情報を確認してケアに取り組んでいます。すべての職員がご入居者の現在の状況を確認して、介護計画の見直しをおこなっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリを実施して歩行訓練を継続していたりしているご入居者がおられます。訪問散髪や訪問歯科などニーズに応じたサービスを利用検討しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居者が外出出来る場所や施設を探して外出が出来るようにすすめています。地域の方にも来所していただき交流を深めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療時にはご入居者の近況の情報を提供してスムーズに受診出来るようにしています。主治医は内科になりますが、眼科や泌尿器科など今までのかかりつけ医を利用されている方もおられます。	利用者全員が本人及び家族の希望により、夜間や緊急時の対応可能な事業所の協力医療機関の訪問診療利用している。内科及び認知症以外の眼科や整形外科、皮膚科など必要に応じて専門医を受診している。訪問看護も月2回利用しており、職員も内容を確認できる連絡ノートも活用し連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者の状況で変化が生じた時はLINEで看護師に状況を報告し指示を仰ぐようになっています。状況によっては看護師により主治医へ報告して往診や受診をおこなっていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院時は家族と共に職員も同行して、現在の状況を報告しています。入院中の状況確認もおこなっています。MSWに連絡をとりいつでも退院出来るように受け入れ準備を整えています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を整備し終末期には事前確認や随時意思確認を行っている。過去にも看取りを行ったこともあり、ご家族や医療関係者とも密な関係を築いている。	事業所は重度化や終末期に向けたケアを行う方針で指針を整備し、利用者及び家族には入居時と体調変化時に説明して意向を確認している。訪問診療や訪問看護と密に連携を図りながら今年度は2名の利用者の看取りケアを行った。職員へはターミナル会議やエンゼルメイク研修などを開催し、ケア終了後にはデスカンファレンスも行っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	バイタルサインに基づき、急変時は救急搬送を行っている。救急隊員へ渡す情報提供書を制作しており、救急時に速やかに渡している。消防署で開催される応急手当の訓練に参加する予定をしている。	緊急対応マニュアルが整備され、初期対応方法や緊急時の連絡先等を記載している。職員は緊急時の対応や事故発生または再発防止に関する研修を実施し、法人全体でも誤嚥時の対処方法について訪問看護師から実際に指導を受けている。事故やヒヤリハット発生時には報告書を作成し再発防止策の検討を行い、職員は報告書を閲覧で確認している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	災害時は施設での待機を想定して災害備蓄品を準備している。災害と感染症に対するBCPを整備している。	年2回、昼夜想定避難訓練を実施している。訓練前には近隣住民に前もって声をかけたが今年度は実際には協力が得られなかった。3日分以上の備蓄品が保管され、災害と感染症対策のマニュアルとBCPが整備され定期的な研修も実施している。感染症の予防及びまん延防止のための指針に検討委員会の設置は記載されているが議事録が確認できない。	感染症の予防及びまん延防止のための取り組みとして、検討委員会の開催時の議事録の整備が望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状態やこだわり、得意不得意などを把握し、言葉がけをおこなっている。ご利用者への態度や言葉がけは、全職員が問題と感じた時は言い合える関係性を築いている。	事業所玄関内に個人情報保護方針及び利用目的を掲示している。職員は利用者が安心できるような声かけをしたり、不適切なケアにならないように職員間で声を掛け合い意識できるように工夫している。ドア付きのトイレ前に、さらにカーテンを設置し、スペースが狭くても介助しながらプライバシーが保護できるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自由な生活を心掛けており、ご本人の希望に合わせた支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムの維持の為に食事時間を決めているが、もう少し後でと言われたらそのようにさせていただきます。職員は支援を必要とされている部分に介入しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を使われている方を見て、自分も使いたいと言われる方には一緒に買い物に出かけて化粧品を選んでいただいています。ご自分で衣類を選んでいただける方は、お好きな服を着用しておしゃれを楽しまれています。訪問美容にてパーマをかけられる方や入浴時に白髪染めをされる方などもおられます。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理ができる方は参加していただいています。子供用に包丁で怪我をされないようにしています。野菜は畑やブレンダーでとれたものを使用してお入居者も育てた野菜を喜んで食べていただいています。	3食とも主食の米飯と汁物は事業所で調理し、副食は配食を利用、夕食は手作りの副食を一品追加し職員も味を確認している。行事や季節に合わせて、利用者のリクエストも取り入れながら、ちらし寿司や沖縄そばを提供している。普段の調理レクでも地元の特産品である「のまんじゅう」を利用者と一緒に手作りするなど食事が楽しめるように工夫している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は6種類ほど用意して飽きのこないように工夫しています。食事量や水分量を記録して少ない方にはこまめに声掛けしながら摂取出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しています。歯ブラシやうがいコップは毎日消毒しています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやパットを使用されている方でも個々のトイレ間隔を把握して声掛け誘導を行い、失禁のないように過ごしていただいています。	事業所のトイレにはすべて「ファンレストテーブル」が設置され、トイレでの排泄動作が安全に行えるようにしている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はほとんどの利用者がトイレを使用できている。夜間は利用者の状態に合わせてトイレを使用する人やポータブルトイレの使用、パッド交換を行い排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	豆乳が便秘予防になると薬剤師から助言をいただき実施しています。体操も実施して、身体を動かしていただいています。車イス使用の方も自走して身体を動かすようにいただいています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回は入浴出来るように計画しています。職員の都合や時間帯を決めているのではなく、ご本人の意思を尊重して、今日は入りたくないと言われれば翌日に入浴をずらしたりと柔軟に対応しています。	3日に1回は個浴で入浴できるように提供し、利用者の希望に合わせて時間や入浴日を柔軟に対応している。「アクアウォーク」という多機能付きのシャワーチェアを使用し、重度の利用者も座位を保ちながらシャワー浴ができるようになっている。浮腫軽減やリラックス目的で入浴剤を使用して足浴を提供することもある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日によって就寝される時間は個々によって違っています。好きな歌番組や野球がある時は遅くまでリビングで過ごされています。居室の温度管理や就寝の準備は就寝前に職員にて確認しています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が変更になったら直ぐに職員に周知しています。薬剤師による居宅療養管理指導があり、副作用など職員に周知しています。服薬に関してはその方の服薬しやすいような形状になるように薬剤師に相談しています。	全利用者が訪問薬局を利用し、薬剤師が一包化された薬を配達、利用者毎のケースへの配薬まで行っている。服薬手順を含むマニュアルが整備され、薬情ファイルで利用者の服薬内容を確認している。誤薬事故が起こった際には報告書を作成し再発防止策を検討しているが、その後同様の誤薬事故が発生している。管理者は法令遵守を徹底するように職員に意識づける工夫をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	同じリビングにおられても食器を洗われている方、洗濯をたたまれている方、プランターの花に水をやられている方、ソファでおしゃべりをされている方とそれぞれのお好きなように過ごしていただいています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブなど頻回ではないがおこなっています。外出が難しい方はご家族が面会に来られておやつやお茶を一緒に楽しまれています。	日頃から敷地内や近所を散歩し、年に1回は敷地内で地元の旗頭の演舞披露もあり、戸外に出られるような支援をしている。利用者は家族の協力を得て外出することもある。月に数回は天気の良い日に事業所のテラスでおやつを食べるなど気分転換ができるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では金銭の管理は行っていません。ご自分で管理ができる方は個々でおこずかい程度の金銭を持たれています。その他の必要なものも購入は事業所で立替えています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されるご入居者には職員が電話をかけてつなぐようにしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームとして建設されたので、使い易いように配慮されています。レクリエーションで皆さんで作成された季節ごとの飾り物と展示して季節感を皆さんで感じていただいています。	共用スペースには季節の飾り付けがされ、壁にはイベントの写真の掲示されている。玄関入り口には腰かけられるような収納の椅子がある。食堂兼居間と対面した台所からは利用者の様子が確認でき、食卓テーブルが数台設置され、一人でくつろげるようにソファも置かれている。居間からはテラスにも出られ敷地の畑を眺めることもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで皆さんと談笑されている方や、自室でご自分の時間を過ごされている方など様々です。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご自宅で使用されていたものをお持ちいただくようご案内しています。たんすやテレビなどを自室に設置してご本人が過ごしやすい部屋模様にしていただいています。	各居室は介護用ベッド、防災カーテン、エアコンの設備があり、利用者は使い慣れた寝具を持ち込んでいる。家具は利用者の状態に合わせて配置し、また、入居前に使用していたタンスやテーブルの持ち込み、時計や家族の写真を飾り、居心地良く過ごせるような居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーとなっており、各所に手すりがあり、トイレや脱衣室にはファンレストテーブルを設置しています。自立支援を基本として支援しており、ご高齢になられてもご自分でできることは行っていただいています。		